

# 令和5年度授業改善プラン

## 1. 全体計画

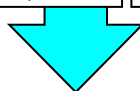
中野区立南台小学校

学校教育目標		
地域に生きる南台の子		
知	かしこく	徳 やさしく
		体 げんきよく

令和5年度学校経営方針（学力向上に関わる要点）	
学び合って かしこい子に 学習をつなげる	
・学習のきまりの徹底	・授業の充実（考える授業・かかわり合いながら）
・家庭学習等との関連	→ 授業と家庭学習、学習用情報端末学習、補充学習等の 連携

指導の重点（各教科）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題解決的な学習、体験的な学習を充実させる展開を意図的・計画的に工夫し、多様な言語活動を取り入れ、単元を通して思考力、表現力、判断力を育てる。</li> <li>・校内研究と関連させながら、交流活動では、ペアやグループでの話し合いやコミュニケーションボードの活用等を通して、主体的・対話的で深い学びを充実させる。</li> <li>・算数科・理科・総合的な学習の時間を通して、プログラミング的思考を育むため、コンピューター等を活用し、情報社会がコンピューター等の情報技術によって支えられていることに気付いたり、身近な問題を解決しようしたりする態度を育てる。</li> <li>・外国語科の学習では、ALT を活用した授業を中心に、コミ</li> </ul>

指導の重点（総合的な学習の時間）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「学校・地域レガシー」、地域環境、福祉・健康を3つの柱として、各教科、領域の学習を関連付けて展開する。「習得・活用」の力を基に、情報収集や表現に学校図書館や学習用情報端末を活用しながら「探究」する力を育成する</li> <li>・横断的・総合的な課題、興味・関心に基づく課題に対して、問題解決や探求活動の過程に体験活動を位置付け、体験して感じたことや気付いたことを基に課題を見付けたり、課題追求の過程で体験したことを深めたり、まとめたりすることで、学び方やものの見方・考え方を育成する。</li> <li>・多様な人材や、地域の教材、学習環境等を積極的に活</li> </ul>



授業改善に向けた具体的方策		
基礎的・基本的な学習内容の定着	発展的な学習	指導と評価の一体化
<ul style="list-style-type: none"> <li>・任期付短時間勤務教員を活用し、習熟度別の学習活動を効果的に実施するため、少人数指導、ティーミング等の工夫改善を図り、個に応じた指導を充実させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身に付けた基礎的・基本的な学習内容を活用して取り組める課題を単元の終わりや関連する他教科の授業の中で扱っていく。</li> <li>・学習用情報端末を活用し、発展的な内容で構成されている問題に個々の児童の学習状況に応じて取り組ませっていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・座席表などを活用し、子どもを見取り記録していく。</li> <li>・評価を次時の学習に活かし、指導と評価の一体化を行っていく。</li> <li>・評価の観点についてそれぞれの観心の趣旨を共通理解していく。</li> </ul>
「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的充	ユニバーサルデザイン、合理的配慮	家庭・地域との連携

<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童自身が学習の見通しをもつために、国語・社会・理科・体育・総合的な学習の時間においては、可能な限り、単元の学習計画を児童と共に決める。</li> <li>・1つの単元内で「どのように学ぶか」「どんなペースで」「何で学ぶか」を選択できる機会を一つ以上はつくる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教室前面に過度に掲示物を貼らず、児童の座席の位置を配慮するなど、学習に集中できる環境を整える。</li> <li>・デジタル教科書や学習用情報端末を操作することで、視覚的・体感的に理解できるようにする。</li> <li>・難易度別にプリントを用意することで、個別の理解度に合わせた学習を行うことができるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭と連携しながら、学習習慣を形成する。その際、東京ベーシックドリル等を有効に活用し、理解力を付けていく。</li> <li>・地域の人材を活用した授業を公開していく。</li> </ul>
---	---	---

## 2 各教科における授業改善プラン

### (1) 国語科

#### 【小学校】

#### 国語科における指導の重点

- ・言葉に対する興味を広げ、意味を理解し、読み書きの基礎基本を身に付けられるように、文章をよく読み、自分の考えを書く機会を大切にする。
- ・豊かに関わり、伝え合う力を高めるために、「話すこと・聞くこと」の学習を研究し、主体性を育む。
- ・図書室を積極的に活用し、本を紹介したり、利用したりすることで読書活動を充実できるようにする。

#### 現状分析

##### 区学力調査の結果分析

2・3・4年生…「情報の扱い方に関する事項」で目標値を大きく上回っている。「書くこと」に課題が見られることが共通している。

5年生は、目標値について「話すこと・聞くこと」「書くこと」で目標値を下回り、「我が国の言語文化に関する事項」は大きく上回った。

6年生は各観点別で目標値を大きく上回った。「説明文の読み取り」が目標値を下回った。

3・4・6年生は、全体の目標値達成率が7割を越えていた。領域による定着の差や個人差があると考えられる。

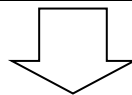
2・5年生は、全体の目標値達成率が6割を越えたものの7割には届かなかった。言葉の特徴や使い方に関する事項の得点が低かったので、読み書きの基礎基本を重視した授業改善を意識する。

##### 教科指導上の課題

2～5年生は、漢字やローマ字、文章を書く力を育てていく必要がある。

5年生は、話をよく聞いたり、順序立てて話したりする力を重点的に指導していく必要がある。

学年によって課題が異なる部分も見られる。一人ひとりの調査結果を担当が把握し、個に応じた指導・支援を行っていく。



#### 授業改善プラン

	「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実の視点	その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等)
1・2年生	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まず、個別に課題に取り組む時間をとり、その後、友達と読み合ったり、アドバイスをし合ったり、いいところを見つけ合ったり、質問をし合ったりする交流の時間をとり、学び合う。</li> <li>・朝自習の時間や長期休業中にデジタル教材を使い習熟・練習が十分にできるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2年生の学力テストの結果、文を書く力が育っていないことが分かる。1年生の時から、ノート・プリント・短作文・作文等、書く機会を多く設定し、文を書く力を育てていく。</li> <li>・図書の時間を確保する・おすすめの本の紹介をする等読書に親しむ環境を作る。</li> </ul>

<p>3・4年生</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「読むこと」の学習では、初めに感想を書き、全体で共有した上で一人一人が追究する課題をもつ。「書くこと」「話す・聞くこと」の学習でも、単元のゴールを目指してどのように学ぶと良いか児童が考えたり選んだりできるようにする。</li> <li>・分かったことを友達と共有し、自分でまとめを書く機会を設定し、一人一人が自ら学ぶ力を伸ばしていけるように支援する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日頃の漢字小テストに加え、デジタル教材を使用して児童が苦手とする部分を集中的に練習して定着できるようにする。</li> <li>・週末に日記や自学の課題を出し、自分で調べたり、感じたりしたことを言葉で表現する機会を設定する。</li> <li>・図書の時間には、中学年向けの本を紹介し、その本を読む時間を設定して、文章を読む習慣を作る。</li> </ul>
<p>5・6年生</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・説明的文章においては、各段落での、情報と情報がどのように関係しているのかをとらえられるように指導する必要がある。そのために中心となる語や文を児童が見付けられるように支援をしていく。</li> <li>・「話すこと・聞くこと」では、児童に単元のねらいを達成できるような学習過程を考えさせることで、身に付けるべき力を意識して学習に取り組んでいけるように支援していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漢字の学習については、全員が同じ進め方をするのではなく、学習用情報端末を活用し、意味調べや熟語を集めるなど、自分なりの学習方法の工夫をして、習得するような方法も考えられる。</li> <li>・物語文においては、初めて読んだ感想を基に、児童が学習で話し合いたいことをまとめ、読みの視点を明らかにして読み進めていくことで、自分たちの学級に適した学習活動ができるように促していくことが必要である。</li> <li>・様々なジャンルの本に親しめるように図書の時間を活用して指導する。</li> </ul>

(2) 社会科

【小学校】

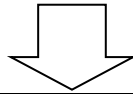
社会科における指導の重点

- ・資料から解決していきたい課題を自分たちで見付ける学習展開を作ることで、主体的な学びを充実させる。
- ・資料を多角的に読み取り、思考力、判断力、表現力を養う。

現状分析

教科指導上の課題

- ・よりよい課題設定ができるように指導をする必要がある。
- ・読み取った情報を生かして、それから考えられることが何かを思考できるような指導をする必要がある。



授業改善プラン

	「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実の視点	その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等)
3・4年生	<ul style="list-style-type: none"><li>・図書資料や iPad を活用してインターネットからの資料を活用し、自分が設定した課題を解決するために必要な情報を探したり、選んだりしてまとめる活動を取り入れる。</li><li>・調べた内容を友達と共有したり、全体場で発表したりする機会を設け、様々な視点から課題に対して捉える見方や考え方を養う。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・資料をただ読み取るのではなく、資料の背景も含めて考えられるように読み解き方を学ばせる必要がある。</li><li>・自分たちで課題を設定させるために、適切な資料提示と発問を工夫し、児童にとってより身近な問題として、捉えられるようにする。</li></ul>
5・6年生	<ul style="list-style-type: none"><li>・資料やインターネットのサイトを用意・提示して、自分で適切な問題解決の方法が模索できるようにする。</li><li>・調べたことをペアやグループで交流する時間を設け、課題に対する結果を導けるようにする。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・日頃から時事問題を話題に出すなどして、自然に社会と自分との関わりに意識が向くようにする。</li><li>・資料の読み取りや比較する活動を繰り返す。</li></ul>

(3) 算数科

【小学校】

算数科における指導の重点

- ・問題から課題を見付け解決していく学習展開を意図的・計画的に取り組み、思考力や表現力を養う。
- ・ペア学習やグループ学習など、協働的な学びを推進し、自ら学ぶ姿勢を育成し、主体的・対話的で深い学びを実践する。
- ・プログラミング的思考を育むため、学習用情報端末を活用し、問題解決をする態度を育てる。
- ・系統的な学びを実感できるように、繰り返し基礎基本の定着を図る。

現状分析

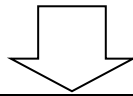
区学力調査の結果分析

低学年においては、目標の達成率は高く、学習内容の定着はおおよそ図れていると言える。ただし、読み取る力（文章題）、量的感覚におけるつまずきについて、個別の支援が必要である児童がいる。

中高学年については、区内目標に達成しており、昨年と比べると大幅にポイントを上げた項目（3年主体的に取り組む態度、4・5・6年思考・判断・表現など）がある一方、単元や領域によって目標値を下回るものもあり、各学年の苦手に応じた支援が必要である。

教科指導上の課題

- ・基礎基本の確実な定着にばらつきがあり、そのための個別指導が必要である。
- ・受け身ではなく、相手意識をもち、他者から学ぶ意識を高めたり、問題解決のプロセスを意識して学習に取り組んだりするなど、主体的で対話的な学びを推進する必要がある。



授業改善プラン

	「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実の視点	その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等)
1・2年生	<ul style="list-style-type: none"><li>・単元のまとめ時、長期休業時にデジタル教材を活用し、個に必要な学びの内容・量を確保する。</li><li>・学習活動の流れとして、自分で思考する時間、考えを共有する時間を設け、「自分なりに考える力」と「他者から学ぶ力」を育む。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・量的感覚を養うために、身近なものを活用した体験的な活動を多く取り入れる。</li><li>・学習の初めに前時の学習内容を振り返り、学びの連続性を意識させ、基礎の定着に繋がるようにする。</li></ul>
3・4年生	<ul style="list-style-type: none"><li>・既習内容の習熟度や児童の希望から、習熟度別で授業を行う。習熟度によって、準備する教材を変え、一人ひとりに合った授業づくりを目指す。</li><li>・単元のまとめ時や長期休業時にデジタル教材を活用し、個に必要な学びの内容・量を確保する。</li><li>・協働的な学びの実現のために、児童同士で学ぶ時間を意図的に設け、双方向的に学ぶ場を保証する。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・習熟度に応じて、具体物を用意して、体験的な活動を多く取り入れる。</li><li>・単元のまとめ時に、評価テストや補充プリントを用意して、基礎の定着を図る。</li><li>・児童同士ノートを見合ったり、難しい部分を教え合ったり、議論したりすることで、個の思考力を養い、同時に自分事として問題解決にあたらせる。</li></ul>

<p>5・6年生</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童一人一人の学習の進捗状況に応じて、自分 にあった問題をデジタル教材の中から選び、取り組 ませるようにしている。問題を解くのが速い児童はさ らに知識を定着させ、つまずきが見られる児童 に対して、分からない箇所を丁寧に教えるようにす る。</li> <li>・問題の解き方、考え方を意見交換する場を意 図的に設ける。友達と意見交換する中で、自分の考 えを 深め広げるようにさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎・基本の定着を図るために、繰り返し既 習事項の復習を行う。</li> <li>・必要な情報を整理し、文章題での立式を確実 にできるようにする。</li> <li>・割合や単位量の関係を捉える問題に対して、 数直線を描かせて、視覚的に理解できるように する。</li> </ul>
--------------	---	---

(4) 理科

【小学校】

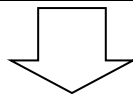
理科における指導の重点

- ・問題解決学習の過程を確実に学ばせるために、各学年における科学的な考え方の重点を確認し、指導にあたる。
- ・個別最適な学びのために、実験方法は児童の思考によって選択できるよう、数通り想定し、教材を用意する。
- ・プログラミング的思考を育むため、学習用情報端末を活用し、問題解決をする態度を育てる。

現状分析

教科指導上の課題

- ・各学年における科学的な考え方の重点を理解させ、問題解決学習の過程を指導する必要がある。
- ・何通りかの方法で実験することができるよう、実験器具を用意したり、その実験に応じた指導をしたりする必要がある。



授業改善プラン

	「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実の視点	その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等)
3・4年生	<ul style="list-style-type: none"><li>・学習内容によって、学習用情報端末に観察結果や実験結果、学習の過程を記録し、いつでも児童本人が繰り返し確認できるようにする。</li><li>・児童の思いを反映した実験ができるようになるために、実験器具を多種多様に準備し、指導体制を整える。</li><li>・結果や考察を交流する時間を設け、相互により表 現や伝え方を学ぶと共に、様々な考え方を受け入れ、全体として結論を導く流れを定着させる。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・「共通体験」をもとに、問題づくり、予想、実験、結果、考察へと毎単元流れを意識しながら授業を行う。</li><li>・問題解決の流れを分かりやすくするために前段階・前授業での事柄も提示したり板書を工夫したりする。加えて、ノート指導を行う。</li><li>・問題づくりや考察の書き方を例示したり、部分的に空欄にしたりするなど、段階に応じた支援、指導を十分にする。</li></ul>
5・6年生	<ul style="list-style-type: none"><li>・共通の学習問題に対して、児童一人一人に予想を立てさせることにより、自分事として考えさせる。</li><li>・繰り返し行うことが難しい実験を行う際、学習用情報端末の動画撮影機能を使って実験結果を録画することにより、必要に応じて児童がそれを見ながら考察をできるようにする。</li><li>・自分のグループの実験結果だけでなく、他のグループの結果と比較することにより、考察を深め</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・問題解決学習の過程を確実に学ばせるために 学習問題・予想・観察・実験・結果・考察・結論という 学習手順を理解させる。</li><li>・考察では、実験結果をもとに学習問題に対して分 かったことや気付いたことを書けるようにする ため に、学習問題に対して自分の考え、見通しを 確実にもたせる。</li></ul>

	させ るようにする。	
--	---------------	--



(5) 生活科

【小学校】

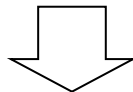
生活科における指導の重点

- ・学校・家庭・地域の人々との繋がりを体験し、身近な地域・人々に愛着をもつ。
- ・身近な自然に触れ、観察し、かかわりを持ち、育て、世話することを通じて、生き物への親しみを持ち、大切にすることができるようにする。
- ・様々な活動を通して自分自身を知り、これからの成長への願いをもって意欲的に生活できるようにする。

現状分析

教科指導上の課題

- ・気候変動にも左右されず、一人ひとりが達成感の得られる飼育栽培の環境を整える必要がある。
- ・都会の学校であるため、自然に生息する生き物が極端に少なく、動画等を使って学んでいる。



授業改善プラン

	「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実の視点	その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等)
1・2年生	<ul style="list-style-type: none"><li>・まず、一人ひとりが調べ、それから協力してさらに調べたり、まとめたり、発表したり、探検したりして、学びを深めていく。</li><li>・学習のねらいにあった課題を自主的に調べられるようにするために、学習用情報端末を有効活用する。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・登下校を見守ってくださる方、町会長など、地域において子どもを守る活動をしている人について知らせ、地域への愛着が深まるようにする。</li><li>・道徳の生命尊重の指導や、国語の観察したことのかき方等、他教科との繋がりを大切にしていく。</li></ul>

(6) 音楽科

【小学校】

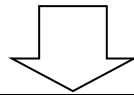
音楽科における指導の重点

- ・すべての児童が主体的に、自分が表したい音楽表現をするために必要な技能が身に付けられるように、音楽の基礎・基本、及び、学びに向かう態度を育てる。
- ・対話的な学びを通して、音楽の諸要素や仕組み、歌詞の内容を手がかりにして曲想を感じ取り、より深く音楽のよさを味わって聴いたり、自分の思いや意図をもって表現したりできるようにする。
- ・児童が課題を見出し、どのように学習するかについて選択したり決定したりして主体的に学習できるようにする。

現状分析

教科指導上の課題

- ・正しい音程で、尚且つ響きのある歌声で気持ちよく歌うことを楽しめるように指導する必要がある。
- ・鍵盤ハーモニカやリコーダーなど楽器の演奏について、苦手意識なく進んで取り組めるように指導する必要がある。
- ・児童が主体的に学ぶために問題解決型の学習過程を組み立てる必要がある。



授業改善プラン

	「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実の視点	その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等)
1・2年生	<ul style="list-style-type: none"><li>・身の周りにあるいろいろな音を出して遊んだり、様々な表現方法を通して友達に伝え合ったりしながら楽しく音楽に関われるようにする。</li><li>・楽器の演奏については、個人で練習する時間を確保する。ペアでの練習やグループでの演奏を通して、自分の課題に気付くことができるようにする。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・歌詞の表す場面や情景を想像しながら表現を工夫して歌うことができるようにする。</li><li>・曲を聴いてイメージしたことを、言葉や体の動きなどで表現し、楽しみながら曲想を感じ取る学習を行う。</li><li>・様々な楽器とふれあい、リズム譜を見ながら範奏を聴いたり、互いの演奏を聴き合ったりすることで、音色に気を付けて演奏できるようにする。</li></ul>
3・4年生	<ul style="list-style-type: none"><li>・一人ひとりが学習課題をもてる導入の工夫を行う。様々な学習活動を用意し、個人に合った活動を児童自身が選べるようにする。</li><li>・粘り強く取り組んでいる児童が、できた、分かったという実感を得られるように、個別指導できる時間を確保する。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・階名唱をしながら運指をしたり、タンギングと運指を合わせたりする練習を行う。演奏動画を録画し、自宅でも学習できるようにする。</li><li>・正しい音と自分の歌声を比べて聴いたり、自分の出せる声の高さを調べたり、自分の歌声をよく聴く機会をつくる。</li></ul>

<p>5・6年生</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人ひとりが学習課題をもてる導入の工夫を行う。</li> <li>・様々な学習活動を用意し、個人に合った活動を児童自身が選べるようにする。</li> <li>・Classroom の演奏動画を使って個人で練習を進められるようにしたり、児童同士で教え合ったりできるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・短い曲に複数取り組み、できた体験を積み重ねる。</li> <li>・児童の発言をいつでも使えるように掲示しておく。</li> <li>・児童の心情に合った選曲をしたり、ハーモニーの美しさを実感させたりして、歌うことを楽しむようにする。</li> </ul>
--------------	--	--

(7) 図画工作科

【小学校】

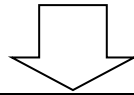
図画工作科における指導の重点

- ・全ての児童が「主体的に表現したり鑑賞したりする態度を育てるとともに、つくりだす喜びを味わうようにする」ために、材料などから発想を広げ、表し方を工夫し、造形的な能力を伸ばすようにする力を6年間を通して身に付ける。
- ・対話的な活動では、まず自分との対話を大前提とする。作品をつくり、つくり変える中で、自問自答を繰り返し自分の納得する作品づくりを目指す。そして、つくりながら友達作品の良さや工夫、表現方法を見とり自分の作品に活かしたり、今後の作品づくりのヒントにしたりできるようにする。
- ・深い学びでは、造形的な見方・考え方を働かせる授業になっているかという視点をもった指導に努め、毎時間授業を振り返り指導改善に努める。

現状分析

教科指導上の課題

- ・道具の使い方や表現方法の基礎基本の確実な定着にばらつきがあり、そのための継続的な指導や個別指導が必要である。
- ・児童が主体的に学ぶための効果的な導入、問題解決型の学習過程を組み立てる必要がある。



授業改善プラン

	「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実の視点	その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等)
1・2年生	<ul style="list-style-type: none"><li>・想像したものを伸び伸びと制作するために、用具、表現方法など児童が自由に選ぶことができるような教具の準備をする。</li><li>・作品の工夫等を紹介し、互いのよさや面白さを味わう時間を設定する。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・用具の正しい使用方法が身に付くように、動画等、端末を活用して分かりやすく示し、繰り返し見ながら技術の向上を図れるようにする。</li><li>・多様な表現方法を知る・体験することのできる題材を設定する。</li></ul>
3・4年生	<ul style="list-style-type: none"><li>・前学年までの材料や用具についての経験を生かし、組み合わせたり、切ってつないだり、形を変えたりするなどして、手や体全体を十分に働かせ、活動を工夫してつくれるようにする。</li><li>・児童が自ら働きかけながら見つけたよさや面白さを児童自身が気付くようにする。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・児童が積極的に材料や用具、表し方などを試すことができるようにする。これまでの経験を掲示物や画像、動画、デジタル教材などから振り返る時間を設定する。試したり、やり直したりすることのできる場、自然に活動を交流できる場の設定も行う。</li><li>・鑑賞活動は、児童と作品が一对一で出会うというよりも、複数の作品、友人等、様々な要素が関係し合う中で行われているため、学習環境に配慮する。</li></ul>
5・6年生	<ul style="list-style-type: none"><li>・前学年までの材料や用具などについての経験や技能を総合的に活かしたり、表現に適した方法などを組み合わせたりするなど、表したいことに合わせて表し方を工夫して表すことができるようにする。</li><li>・鑑賞する活動を通して（自分たちの作品、我が国や諸外国の親しみのある美術作品、）、造形的なよさや美しさ、表現の意図や特徴、表し方</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・材料や用具の効果や可能性に気付くような指導を工夫する。これまでの経験を掲示物や画像、動画、デジタル教材などから振り返る時間を設定する。新たな材料や用具との出会い方を工夫する。児童自身が材料や用具を活用しながら、その効果や可能性に気付くようにする。</li><li>・「友人の作品の鑑賞を通して自分の作品のよさに気付く」「美術作品から考えたこと言葉にして</li></ul>

	の変化などを感じ取れるようにする。	まとめる」など鑑賞する対象の違いに応じて指導計画を作成する。
--	-------------------	--------------------------------

(8) 家庭科

【小学校】

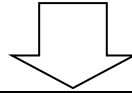
家庭科における指導の重点

- ・日常生活の中に問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、課題を解決する力を養う。

現状分析

教科指導上の課題

- ・初めて裁縫を学習する5年生の段階で基本の技能を身に付け、6年生でその技能を活用して発展的な学習を行うために、苦手意識をもたせない学習内容の工夫を行うことと、家庭の中でどのように生かしていくかを考えさせる必要がある。
- ・家庭の仕事に対して「家庭の仕事は家族みんなが当たり前に行うものである」という意識をもたせ、自分からすすんで家庭での役割を担っていかうとする態度を学習する中で培っていく必要がある。
- ・児童が主体的に学ぶために問題解決型の学習過程を組み立てる必要がある。



授業改善プラン

	「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実の視点	その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等)
5・6年生	<ul style="list-style-type: none"><li>・一人ひとりが実習を振り返る時間を設け、実践の中で身に付いた技能や、気付きについて確認できるようにする。</li><li>・互いの気付きや学びをより深めることができるよう、児童同士で教え合ったり伝え合ったりする事ができるようにする。</li><li>・一人ひとりが学習課題をもてる導入の工夫を行う。実習内容は、基礎的な内容から発展的な内容まで用意することで、児童が自分に合わせた学習内容を選ぶことができるようにする。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・基礎縫いでは、学習用情報端末を活用して運針の仕方について適宜動画で確認できるようにする事で、個別に必要な情報を必要なタイミングで得ることができるようにする。</li><li>・学校での学びを家庭で活かすことができるよう、学習で身に付けた技能や知識を家庭で実践する機会を設定する。</li><li>・今後の家庭の仕事に対する意欲付け、担い手としての自覚をもてるよう、保護者から実践に対するコメントをもらう場を設定する。</li></ul>

(9) 体育科

【小学校】

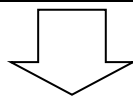
体育科における指導の重点

- ・運動や健康についての自己の課題を見付け、その解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。

現状分析

教科指導上の課題

- ・教師が個々の児童の課題に合った運動の場の設定や教材の工夫をすることができていない。
- ・教師が個々の児童の課題に合った解決方法を把握し、指導することができていない。
- ・教師が個々の児童の学習課題に対する振り返りを把握し、次時の学習に学びをつなげる授業の展開ができていない。



授業改善プラン

	「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実の視点	その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等)
1・2年生	<ul style="list-style-type: none"><li>・学習カードを活用し、児童が授業ごとに課題を決めて、取り組むことができるようにする。体の動かし方・安全な運動のしかたなどを、授業中に交流したり授業後に振り返ったりして、次の学習に生かせるようにする。</li><li>・活動の様子を学習用情報端末で撮影し、児童が見合って自分の動きを見直したり、友達の良い動きを見付けたりできるようにする。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・シンプルで運動量がしっかりと確保されるような場の設定をする。また、学習過程を工夫し、1単位時間で活動を組み合わせ、単元を柔軟に横断させて様々な動きができるよう工夫する。</li><li>・場の設定やチーム編成を工夫することで、友達と関わって活動に取り組んだり、勝敗や結果を受け入れたりすることができるようにする。</li></ul>
3・4年生	<ul style="list-style-type: none"><li>・児童同士で活動の様子を撮影、確認していくことで自分や友達の動きの課題を発見できるようにする。</li><li>・学習カードを用いて活動中での気付きや振り返りを行い、学級や児童の実態に合った課題を設定しながら学習を進めていく。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・主運動につながる動きを準備運動やその後に取り入れ、技能が定着するようにする。</li><li>・1時間の中で一定の運動量を確保するため、場の設定や準備の時間が短くなるようマネジメントを行っていく。</li></ul>
5・6年生	<ul style="list-style-type: none"><li>・児童が学習用情報端末で運動の様子を撮影し合い、個々の運動の問題を児童同士が協働しながら発見できるようにしていく。</li><li>・毎時間の学習課題を教師が決めるのではなく、児童の振り返りや児童の意見から設定し、その学級集団に合ったカリキュラムで学習できるようにしていく。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・運動量を確保するため、授業開始から10分以内にその時間の主運動に取り組めるよう、授業準備や場の設定など、マネジメントを工夫していく。</li><li>・児童の基本的な動きの定着に向けて、主運動につながる運動を準備運動後に行い、運動技能の定着につながるようにしていく。</li></ul>

(10) 外国語活動・外国語科

【小学校】

**外国語活動・外国語科における指導の重点**

「外国語を使ってコミュニケーションをとること」が最も必要な力であり、会話することに重点を置いた指導する。また、そのためには文法を意識させず、「正しい発音の仕方」を単語として、または、一文として ALT から正しい音として教わり、英語の一音一音を大切に話せる児童を育てる。また、同時に書くことも重要視したいが、アルファベットの書き方が定着がしてなかったり、その音が定着していなかったりするので、まずは3年生の段階でローマ字を扱った際に確実な定着を目指す。そしてそのアルファベットがもつ音も中学年の段階で大切にしていく。そうすることで、高学年ではスムーズに書く活動につなげていく。

**現状分析**

教科指導上の課題

- ①今年度から ALT との連携を強化する必要がある。
- ②他校での実践例を ALT から提示してもらうなどして、教材研究の時間を短縮する必要がある。
- ③正しい発音（英語固有の音声）の見本を提示し、児童が英単語の音声に慣れ親しめるようにしたり、英語の使い方として正しい表現を教わったりする。また、児童が言い表したい言葉が分からない時に自由に聞けるような環境をつくる必要がある。
- ④Small talk の際に ALT を活用し、担任は児童と ALT をつなげる役割を担い、スムーズな会話ができるようにサポートする必要がある。

**授業改善プラン**

	「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実の視点	その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等)
外国語活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ALT とのやりとりや友達同士のやりとりを通じて、伝わる喜びや聞いて分かる喜びに気づき、コミュニケーションできるよさを感じさせていく。</li> <li>・デジタル教材を活用しながら、異文化について知ったり、発音や発声をまねしたり、外国語について興味関心を高めるきっかけを作る。</li> <li>・外国語を使ったカードや名札作りなど、アルファベットを書く機会を設け、一人一人の習熟に合った支援を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外国語活動に慣れ、親しむ活動（歌やゲーム）などを多く取り入れながら、外国語を発声することや発音することに抵抗感をなくしていく。</li> <li>・3年生のローマ字の学習からアルファベットの書き方について学び、4年生では、さらに習熟できるように繰り返し書く学習を続けていく。</li> </ul>
外国語科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習用情報端末の支援員にワークシートを作成してもらい、端末上で単語の位置などを操作しながら考えたり、書いたりできるような学習教材開発を進める。</li> <li>・児童の柔軟な適応力を生かして、体験的な学びの中から、英語のもつ魅力に気付かせるようにする。</li> <li>・授業の中で異文化について知る活動や、体験する活動を取り入れることで、興味関心を高めていく。また、自分で調べる活動なども取り入れスピーチなどに生かせるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Sounds and Letters の活用を確実にして、音と単語を確実に結び付けていく。</li> <li>・児童が、自ら「話したい」「伝えたい」と感じるような課題の設定をする。やらされている形になるのではなく、必要感から英語を話すような活動を考える。</li> <li>・高学年では、listening だけでなく、writing も同時に行い、書く事への抵抗や苦手意識を減らしていく。</li> </ul>



(11) 特別の教科 道徳

【小学校】

**道徳科における指導の重点**

(ア)豊かにかかわり合う活動を重視し、「人間関係の構築」と「集団所属意識の醸成」を目指し、重点内容項目を「感謝」「親切・思いやり」「生命の尊さ」とし、地域、家庭との連携を深め、全教育活動における道徳教育の充実を図る。同時に、その要となる「特別の教科 道徳」の学習を工夫・改善し、自分自身を見つめ、自分で自分を育てようとする児童を育成する。

(イ)全教育活動における道徳教育と道徳科の関連を重視する。その充実のために、道徳教育推進教師を中心に文部科学省、東京都教育委員会等発行の教材集を積極的に活用し、道徳教育の全体計画、道徳科の年間指導計画の工夫・改善を図る。また、月1回全校一斉道徳授業週間「南台ハート週間」を設定し、人権意識を大切にした学級経営を基盤に、工夫した授業が確実に実施できるようにする。年間を通じて、児童の学習状況や道徳性に係る成長の様子を蓄積した授業記録やノート等の資料から見取り、児童を受け止め、励ます評価に努める。さらに、道徳授業地区公開講座「南台ハートの日」を実施し学校、家庭、地域が連携し同一步調で児童にかかわっていく。

**現状分析**

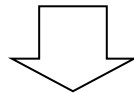
教科指導上の課題

【児童の実態】

- ・道徳科の内容を自分とかけ離れた内容に感じてしまうことがある。そのため、自分にも起こりうる話や、自分に関係のある話だと捉えることに苦手を感じる児童がいる。
- ・ワークシートに、自分の素直な考えを書けなかったり、自分の経験を想起できなかったりする児童がいる。
- ・他教科に比べて道徳科への意欲を高める必要がある。

【教師】

- ・授業準備に充てる時間が足りず、指導書のまま授業を行ってしまうことがある。
- ・評価の為にワークシートになりがちであり、自己の振り返りではなく、決意表明をさせる授業も散見される。



**授業改善プラン**

具体的な授業改善案

- ・児童自身が「自分のこと」として教材と関わるために、教師のできる工夫を行う。具体的には「教材提示の工夫」を充実させたり、役割演技の機会を設けたりすることで、児童の自我関与を促す。
- ・本音で語り合える（子供同士も教員と子供も）環境を整える。そのために授業の中では「価値理解」に終始するのではなく、「人間理解」を扱うことも大切にする。
- ・Google ClassroomやGoogle Formsで事前アンケートをとり、導入において活用するなど、教材や価値への関心を高めることができるようにする。
- ・展開後段では協働学習ソフトを活用し、友達の考えを参考にすることができたり、記述を基に意見を交流したりすることができるようにする。
- ・自己の振り返りでは、必ずしも書く活動をするのではなく、場合によっては話し合いを用いる。
- ・教材提示で使用するプレゼンテーションソフトやこれまでの実践事例などを積極的に共有することで、既存の物を活用することができるようにする。